

2024年 4月 6日

第 78 回全日本体操種目別選手権・団体選手権出場枠(女子)について

(公財)日本体操協会
女子体操競技強化本部
大会プロモーション委員会

第 78 回全日本体操種目別選手権

■参加資格

- ① 年齢が13歳以上の者(2024年12月31日までに達する者)
- ② シード枠(全日本種目別予選免除者)4名
- ③ ②を除く、種目別ランキング上位者18名
- ④ 映像審査上位者6名

- ※ ②は決勝のみに出場する。
- ※ 予選には③18名と④6名、計24名が出場する。③に辞退者が出た場合は④の次点者から繰り上げる。第78回全日本体操種目別選手権映像審査後から第78回全日本体操種目別選手権の参加申し込み締め切り期日までに辞退者が出た場合、順次映像審査の上位者に出場資格を与える。
- ※ 決勝には②4名と、予選上位者4名、計8名が出場する。②に辞退者が出た場合は、順次予選上位者から繰り上げる。

【シード枠(全日本種目別予選免除者)】

以下に該当する者4名をシード枠とする。

A: パリオリンピック種目別ファイナリスト

B: 種目別ランキング上位者 ※跳馬は1跳躍とする

下記の(1)～(6)の競技会における各選手のベストスコアで種目別ランキングを作成し、その上位者からAを含めた4名を選出する。

- (1)全日本個人総合予選
- (2)全日本個人総合決勝
- (3)NHK杯1日目
- (4)NHK杯2日目
- (5)パリオリンピック(予選・団体決勝・個人総合決勝)
- (6)各連盟競技会(全日本ジュニア1部 / 全日本インカレ1部・2部 / 全日本シニア)

- ※ Bにおけるタイブレークは、原則としてFIG競技規則に則って行う。さらに同点の場合は、上記(1)～(6)の競技会の中で当該種目における各選手の2番目に高い得点を比較し、その上位者から順にシード枠を与える。さらに同点の場合は、同様に3番目以降の得点を比較する。出場した競技会数が異なり得点を比較できない場合、より多くの競技会に出場した選手を上位にする。タイブレークが不可能な場合、決勝は9名以上で行う。(予選からの決勝進出4枠は減らさない)

【全日本種目別予選出場者】

以下に該当する者 24 名を全日本種目別予選の出場者とする。

C:種目別ランキング上位者(Bより下位) ※跳馬は1跳躍とする

上記(1)～(6)の競技会における各選手のベストスコアで種目別ランキングを作成し、A および B を除く上位 18 名を選出する。

D:映像審査上位者 ※跳馬は2跳躍とする

A～C を除き、下記参考基準点程度を満たす選手が映像審査に参加することができ、このうち上位6名を選出する。

- ※ C におけるタイブレークは上記 B 同様に行う。ランキング18番目が同点でタイブレーク不可能な場合、予選の出場枠を増やす。これにより、D(映像審査)での出場枠は変動する。(予選出場24枠は変動しない)
- ※ 予選における跳馬は2跳躍とし、その平均点により順位を決定する。(映像審査も同様に、2跳躍とする。)
- ※ 映像審査参考基準点:
跳馬 13.000(2跳躍の平均)、段違い平行棒 12.500、平均台 12.500、ゆか 12.500

■タイムライン

各連盟大会の終了後(9/15以降)、参加資格②～④に関する種目別ランキングを決定

↓

9月末までに出場有資格者を発表(意思確認を含む)

↓

10月3週目頃に映像審査を実施。

(映像は2024年4月1日以降に撮影された演技)

↓

11月初旬までに出場者を決定(申込および抽選、スタートリストを公表する)

第78回全日本体操団体選手権

■参加チーム数 16チーム

1. 下記3大会における得点を順に並べ上位15チーム
(チーム得点を6-6-4で再計算し選出する)
 - (1) 全日本ジュニア選手権(1部)
 - (2) 全日本学生選手権団体(1部・2部)
 - (3) 全日本シニア選手権
2. ジュニアナショナル強化選手を対象とする選抜チーム

※ ジュニアナショナルトライアウト(9/21 開催予定)終了時点で、ジュニア選抜チームが編成できない場合は、上記の16位のチームに 出場権を与える。

以上